



ネギ

F1 秋の宝山

抜群の夏越し性
夏～秋冬用一本ネギ



ネギ

F1秋の宝山

抜群の夏越し性 夏～秋冬用一本ネギ

品種特性

1. 耐暑性・耐湿性に優れ、夏越し後の株の残存率が高い。
2. 草姿は立性、葉色は比較的濃い。
3. 葉の病害に対して比較的強い。
4. 肥大は漸進的で、収穫に追われる心配が少ない。
5. 根張りが良く、少肥栽培に向く。

栽培のポイント

圃場準備

近年ネギの土壌病害が発生した圃場では作付を見送るか登録農薬で適切に処理を行う。完熟堆肥の施用や排水対策などにより、通気性や排水性の改善に努める。定期的に土壌診断を行い、pHでは6.0～6.5を目標に石灰資材などで矯正するとともに土壌養分のバランスを保持するように努める。

播種・育苗

発芽や苗揃いをよくするため、チェーンポット利用ではネギ専用の培土を用い、は種は各穴2～2.5粒程度とする。

育苗中は徒長苗にならないように温度や水管理に注意する。途中、葉が長くなった場合は剪葉することで、しっかりとした苗に仕上げる。

育苗日数は冬・秋まきで50～60日、春まきでは45～50日とする。生育上では葉鞘茎2～3mm、葉数2.5～3枚時を目安に定植する。老化苗にならないように注意し、天候により定植できない場合には液肥の施用を行う。

施肥

宝山シリーズの特性として、生育全般に対して肥料による生育促進はそぐわない。有機質配合肥料や緩効性肥料を利用してじっくり生育させることが望ましい。

基肥における有機質肥料の施用はその後の生育に良い影響を及ぼす。基肥は成分量としてN:P:K=6～10:15:10(kg/10a)を目安とし、土質・保肥力の違いにより施肥量を加減する。定植の20日前には施肥・耕耘をしておく。

定植

溝切りは乾燥防止のためにも定植直前に行う。生育中の欠株が少ない品種であるため、定植密度としては1m辺り40株程度を目安とする。定植時や、その後の乾燥により、活着及び生育が遅れる

ことがあるので、定植は過乾燥時は避け、ほ場の適湿時に行う。定植時、ポット自体が表面に出てしまわないように注意する。また、定植後は溝の中の滞水に注意する。

追肥、土寄せ

追肥は土寄せ時に窒素成分量2～3kg/10a程度を施用する。1回目の土寄せは活着が完全であることを確認して、定植後約25日前後を目安とする。梅雨入りによる降雨で溝の滞水を避ける意味でも溝埋めは早めに行う。その後の土寄せは、太り具合を確認しながら4～5回を目安に適時行う。土のかかり過ぎに注意し、特に夏場の無理な土寄せは控えること。

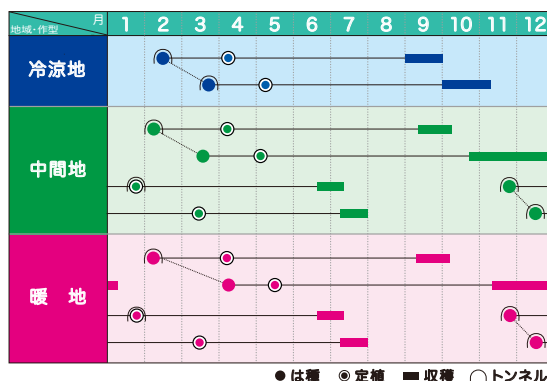
病虫害防除

定植後の株は軟弱で病虫害の発生が多くなり、欠株に繋がるので注意する。葉の病害に比較的強い品種であるが、他の病虫害を含め、登録農薬にて予防的に対処する。また除草や排水対策などの耕種的防除に留意する。

収穫

厳寒期の葉折れの発生に注意し、適期での収穫を心掛ける。

作型図



ヴィルモランみかど株式会社

〒267-0056 千葉県緑区大野台1-4-11
TEL:043-311-6100 FAX:043-205-5503

vilmorinmikado.jp



掲載内容の複製やデータ、写真の無断転用を禁止します。